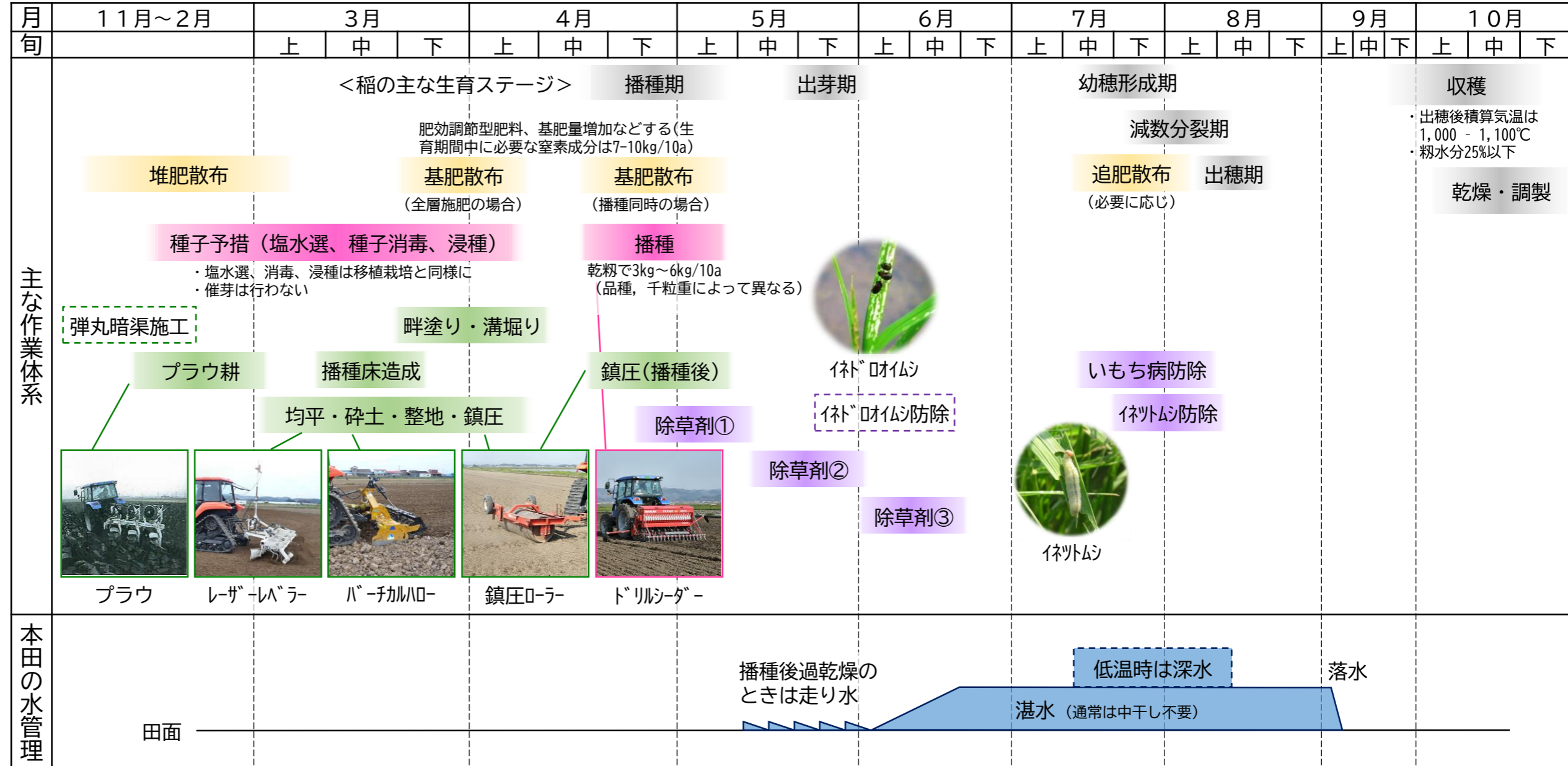


# 登米地域の水稲乾田直播栽培暦（プラウ耕＋グレーンドリル播種体系）

宮城県登米農業改良普及センター  
令和5年3月作成

収量構成要素の目安	
ひとめぼれ	
目標収量(kg/10a)	540～570kg
m <sup>2</sup> あたり穂数	400～450本
一穂粒数	70～75粒
m <sup>2</sup> あたり粒数	30千粒前後
登熟歩合	75～80%
玄米千粒重	23.0g
ササニシキ	
目標収量(kg/10a)	570～600kg
m <sup>2</sup> あたり穂数	400～450本
一穂粒数	80～85粒
m <sup>2</sup> あたり粒数	34千粒前後
登熟歩合	75～80%
玄米千粒重	22.0g



### 栽培管理のポイント

**本田準備から播種までの作業のポイント**

- プラウ耕 前年の刈株を土中に埋没させ、均平や播種作業をしやすくする。
- 畦塗り 畦畔からの漏水や移植ほ場からの浸水を防止する。入水後の一発処理型除草剤の効果を安定させる。
- 明きよ 隣接移植ほ場からの浸水や播種前の滞水が懸念される場合等、必要に応じて溝堀りをして明きよを設置。
- 弾丸暗きよ 耕起・砕土・均平・鎮圧・は種等が計画的に行えるようにほ場の乾田化を促すため、必要に応じて施工する。
- 砕土 播種時に2cm以上の土塊がないよう十分行う。
- 均平 低い部分への滞水と出芽率低下の回避、入水後の一発処理型除草剤の効果安定化のため、レーザーレベラーで丁寧に行う。
- 播種前鎮圧 播種深の安定化(15mm程度)と漏水防止のため、播種床を硬く造成する。(目安は片足の踵に全体重をかけて、深さ4cmくらいの足跡がつく程度。)
- 播種 播種量は乾籾で3kg～6kg/10a(品種、千粒重によって異なる)
- 播種後鎮圧 種子と土壌を密着させ、播種深を揃える。ただし、土壌が湿っている場合や粘土性が強い場合は省略。

### 除草体系のポイント

土壌処理剤→茎葉処理剤→初中期一発剤 の処理体系

- ①播種後～出芽前に土壌処理型除草剤を散布。
- ②入水前に雑草の発生が見られれば草種に応じた茎葉処理型除草剤を散布。
- ③入水後、水が落ち着いたら直播栽培に登録のある初中期一発型除草剤を散布。

※ 効果、抑草期間、雑草の発生・生育状況に適した除草剤を選定。

### 害虫防除のポイント

- イネドロイムシ まだ生育量が少ない6月上旬から葉を食害。移植で被害の多い地域では防除を検討。
- イネツトムシ 移植栽培で葉色が落ち、直播栽培でまだ葉色が濃い時期に加害される。防除適期は若齢幼虫期(7月下旬～8月初旬ごろ)と非常に短い期間に限られる。若齢幼虫の形成するツトを見逃さないようにする。

### 薬剤編 (登録状況は令和5年3月8日現在)

【除草剤①(土壌処理)】

- マーシエット乳剤
- サターンバアロ乳剤 等

【除草剤②(茎葉処理)】

- クリンチャーEW 等(イネ科)
- バサグラン液剤(ナトリウム塩) 等(広葉雑草)
- クリンチャーバスME液剤 等(イネ科・広葉)
- ノミニー液剤 等(イネ科・雑草が目立つ場合)

【除草剤③(初中期一発)】

- ガンガンジャンボ 等

【殺虫剤・殺菌剤】

- ダントツEXフロアブル 等(イネドロイムシ)
- ブラシンゾル等(いもち病)
- ディアナSC 等(イネツトムシ)
- キラップフロアブル 等(カメムシ類)

農薬を使用するときは、ラベルや最新の登録状況を必ず確認し、登録内容を遵守してください。